視点にたったリスクマネジメント」と題してご講演いただき、医療者視点と患者視点でのリスクのギャップについて、説明と同意の大切さ、患者視点の捉え方など実例を交えてご講演いただきました。

シンポジウムでは「患者さんの視点にたった連携医療」をテーマに急性期病院と連携医療機関の医師、回復期病棟師長、理学療法士、社会福祉士の5名の方にそれぞれのお立場から医療連携についての現状と課題についてご紹介いただき、患者さんにとって有意義な連携についての活発な意見が交わされました。

本学術集会の開催にあたり、ご協力ご支援いただきました皆様方に心より感謝申し上げ、開催の報告とさせて頂きます。

第2回埼玉支部学術集会

学術集会会長：埼玉社会保険病院病院長　細田 洋一郎

会場風景

2013年3月24日(日)、埼玉県県民健康センターにおいて、「より良い地域医療の構築に向けて」をメインテーマとして、第2回埼玉支部学術集会を開催しました。約200名のご参加をいただき、基調講演1題、特別講演2題、シンポジウムとランチョンセミナーが行われました。

最初に、学術集会会長の埼玉社会保険病院の細田 洋一郎院長より、基調講演「埼玉県における地域医療機能推進機構病院の役割」が行われ、2013年4月より独立行政法人地域医療機能推進機構の病院として、地域医療に重要な役割を果たすことなどが述べられました。

特別講演1では、埼玉医科大学病院看護部長の野口 久美子先生より、「看護師特定行為・業務試行事業の指定施設の取り組み」と題し、認定看護師と特定看護師の違いとその事業の取り組みについて、お話しをいただきました。

特別講演2では、独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構の尾身 茂理事長より、「地域医療連携の更なる強化に向けて」と題し、我が国の医療供給体制の急所である「総合医育成と地域連携」について活発な議論が行われました。

シンポジウムでは、「これからの地域医療づくり」と題して、5名のシンポジストの方に、それぞれのお立場から現状と将来の展望などをお話しいただきました。会場との活発な意見交換が行われ、意識レベルの高さが伺われました。

また、ランチョンセミナーでは、「災害に強い病院づくり」について、清水建設プロポーザル本部医療福祉計画室の馬場祐輔室長より、お話しをいただきました。

埼玉支部として発足し、今回が第2回の学術集会にも関わらず、盛会のうちに終了できましたのも、関係の皆様方の多大なるご支援とご協力の賜物と感謝申し上げ、開催の報告とさせていただきます。

第12回長野支部学術集会

学術集会会長：丸の内病院病院長　中土幸男

会場風景

2013年5月18日(土)、松本市の松本東急インにて、メインテーマに『チーム医療とICT活用でめざす新たな医療マネジメントの可能性』を掲げ、第12回日本医療マネジメント学会長野支部学術集会を開催致しました。

職種を超えた情報交換の場として、長野県全域から約450名にご参加頂き、大変有意義な会となりました。

招聘講演として、国際医療福祉大学大学院教授：武藤正樹先生に『チーム医療とスキルミクス』、在宅ケア移行支援研究所：宇都宮 宏子先生に『在宅療養移行マネジメント～地域と協働で体系化する～』、特別講演として、厚生労働省政策統括官：唐澤 剛先生に『地域包括ケア－地域に根ざした循環的で包括的な医療・介護サービス提供体制をつくる－』と題してご講演頂いたほか、ランチョンセミナーでは、長野県看護大学大学院里山看護学教授：北山秋雄先生に『チーム医療を支える最先端の地域福祉ICTネットワーク－認知症等の治療・看護・ケアー』、東京大学大学院医学系研究科・コンチネンス医学講座特任教授：井川靖彦先生に『コンチネンス医療における多職種連携による集学的マネジメント』と題してご講演頂きました。

一般演題では、地域医療連携・在宅支援・災害医療・薬剤・医療安全・医療の質・DPC・情報管理の8セクションに全18題がエントリーされ、様々な職種からそれぞれの取り組みについて報告がなされました。

パネルディスカッションでは杉山外科医院：杉山 敦先生、信大難病センター：中村昭則先生、丸の内病院小児科：宮島有果先生、丸の内病院リウマチ科：山崎 秀先生により『チーム医療』をテーマにした意見が交わされ、会場との意見交換もあり、非常に内容の濃いディスカッションができました。

今回は同一フロア2会場(各200～400名収容)での開催となりましたが、大きな混乱もなく成功裏に終了することができましたのも、ひとえに関係者の皆様方のご支援によるものと心より感謝申し上げ、開催の報告とさせて頂きます。